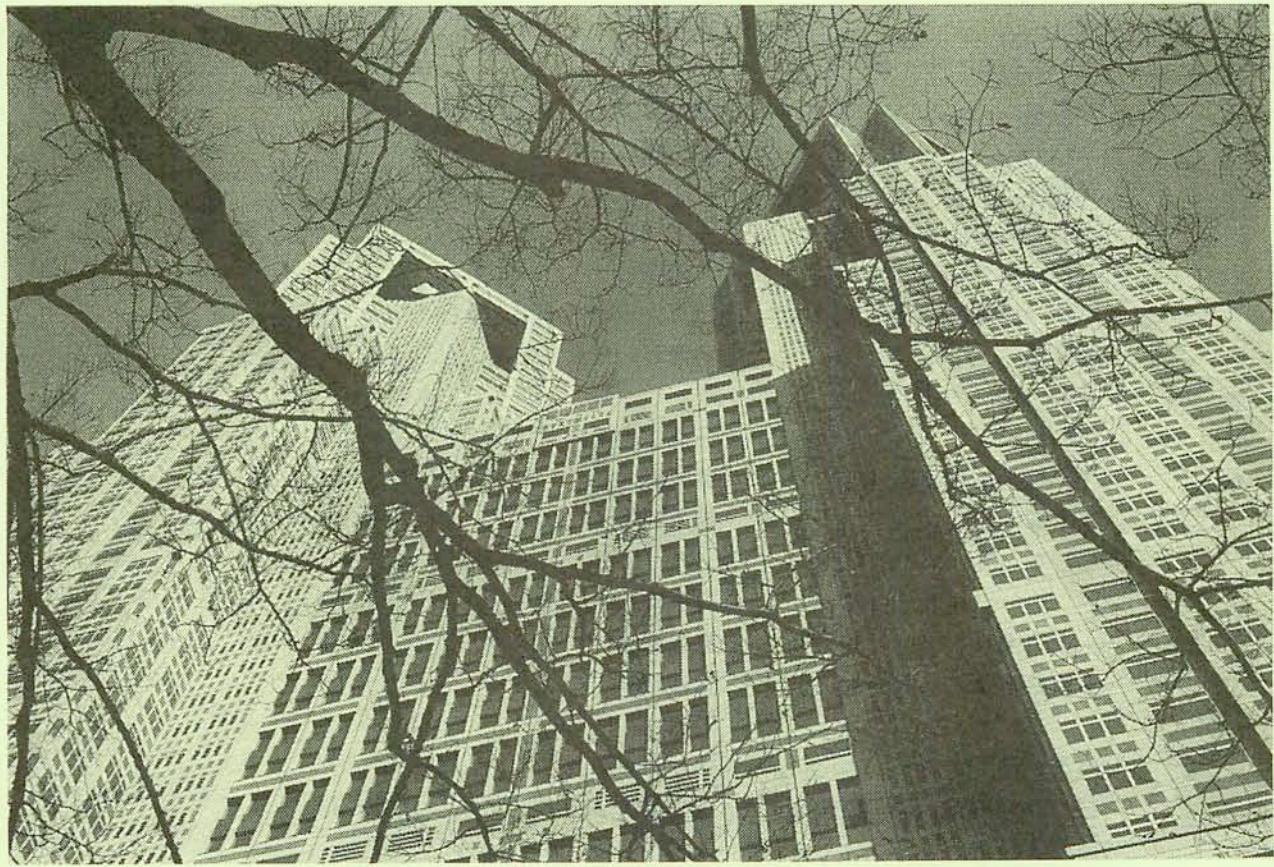


路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2003年1月1日発行

露宿

第22号
Rojuku



定価500円

露宿

目次

| | | |
|-----------------|------------|----|
| 表紙写真 | 迫川尚子 | |
| 文中写真 | 岡田知子 | |
| 生生流轉 | 富士森和行 | 2 |
| 2002年に作った句 | 橋安純 | 3 |
| 銀杏三首 | 根なし草 | 4 |
| 無題 | 京都人 | |
| 新しき年を迎えて他 | 田代猛 | 5 |
| 俳句5首 | はぐれ雲 | 6 |
| 風太郎の詞 | 旅一人 | |
| 画 | 悔吾 | 7 |
| 破滅えむかって…他 | 秋戸空 | 9 |
| 石と銃 | 昼来狂一 | 11 |
| 五行詩 | 近松雅之 | 12 |
| 無題 | レイナ | 13 |
| 別れのブルース港町 | 弓削鴻介 | 14 |
| こがらし子守唄 | 入矢剛弓 | |
| 歌集「結婚詐欺師」 | 望月大成(挿し絵も) | 15 |
| 悪夢他 | 名無しの権兵衛さん | 18 |
| 無題 | K | |
| 宿命他 | 名無しの権兵衛さん | 19 |
| 境界線上にみる夢（上） | 井上林太郎 | 21 |
| 朝太郎の箱船 | 鈴木克彦(挿し絵も) | 25 |
| もしかして、パートⅢ | | |
| ～自立～ | 只野醉払(挿し絵も) | 29 |
| 水道町より | 高橋美香 | 33 |
| 東京路上ふらり散歩 | 笠井和明 | 34 |
| | 岡田知子 | |
| あかい花 | はり師いが丸 | 37 |
| おきなわ旅日記～与那国を去る～ | 恩田美代子 | 38 |
| 編集後記 | | |

—生生流轉—十五首

富士森和行

放浪の起点となりしわが運命未来までも生生流轉

わが窓の春めく午後の反射光路上へ帰れと吾れを誘ふ

生暖るき風に明けたる朝ありて鳥親しげに飛び来て鳴けり

そぞろ行く園の山茶花散りはじむ初冬の陽ざし厳しくならむ

自画自讃味氣なく終る中にして爽やかなパレードの選手らに醉ふ

朝光の街の人垣に紙の旗ふりてホームレスのエールも受けよ

拉致のごと窓に光る日々この老軀掠奪するはたゞ自然のみ

賢しらにわれの想ひに逆へる木枯となる夜の新宿

路上の仲間ら一人残らず社会復帰果すに眼覚めわが夢の老ゆ

労働者たちの町たそがれて冬の灯の点く頃風の唸り始まる

見識のおかた哀しわが心常に見透かされて歳晚となる

わが書売る夜の新宿反応の直かに届きぬ雜踏の中

冬曇る窓を閉してひと日居るわれに路上の死のある思ふ

キリストの愛の未だに見えざらむ底辺の魂よなにをさ迷ふ

この純粹なるホームレスの文芸誌忽ち数号かさね新春



11月11日に作った町

橋 安純

人間も僕ハ捨てにはり様
寒さきえ露宿がふえて梅の赤
一生懸命がり力一引いていふ
路上寝に声かけたくぬれ土をきこむか
路傍の石 飛びかえば武器になり
（路傍 石になれず時に反撃）
あればあらばよひで今を生き

良い事あり悪い事あり今があり
弱ければ弱いまま生き日が暮れて
緑陰にせみの死骸や寝る男
即遍路 野宿生活耐えて生き
無宿ひとつ公園野宿
（人生即遍路 — 山頭火）

枯れ葉 倒溝を流れて海まで行くか
説教きて差し入れ萬里路 上秋
（さがんとくじゆははなじめたせいかへ

一 以下曰國遍路タツ
麦の糲黄金にモえて青い
青々と田んぼつらなり日本が
水田や勤めく命とだて田
くねくねと謙にも金わざ青い山
陽がこりて猫はじめむり持餘なり
経あえて雨だれの音吟むす手に
雨の中あるじてあるじてあたたかうめ
雨のぐせ草むすび微笑んで
ますます重い荷足もどかなる雨降りつづけ
へりつづけ

次々に荷物捨てて雨遍路
登りつめて雪の中なり雪辺
後あしは金剛杖と接待と
南無大師疲れた体 金剛杖で押す
漁り火やエンジンがじて星空で
夜中の渓辺 石ころも観う
金剛杖 = 遍路持つて杖 = おほだ師 = 「おほだ師」の前身と呼ばれる。
南無大師 = 「南無大師遍路金剛」の略。南無大師に帰依します。
（こうした先づ、遍路中随時おこなう。）

● 銀 杏 三 首

銀杏に
尻を叩かれ
衣替え

銀杏が
売れて焼酎
買いに行き

銀杏を
貰つてイチヨウに
義理ができ

根なし草

◎彼岸花 あさるへいろの
かもめづか

里をとすがよて今も
タチホニ宿路に野宿かな。

平かづかこのころうもう
川かづかのこよみうら

朝顔が

つまづきもさく

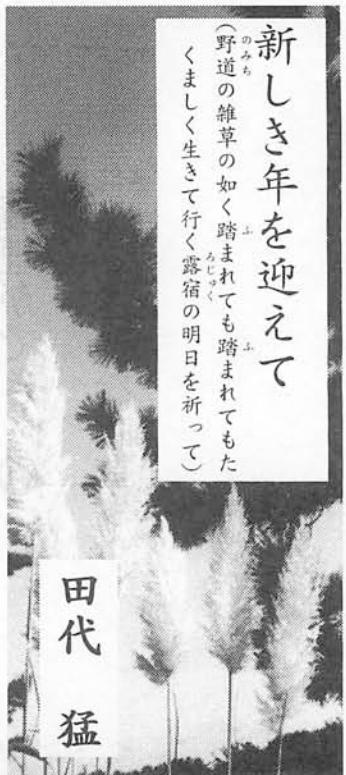
つり拂ひをひがつあぢてまき

詠
ゆき そと き、まき
圓すき

京都人

新しき年を迎えて

(野道の雑草の如く踏まれても踏まれてもた
くましく生きて行く露宿の明日を祈つて)



田代 猛

再会

過ぎし日二〇〇〇年二月二五日発行の露宿五号で代筆致しました「過去、現在、未来」の松本義雄さんと二年半振りに再会致しました。

代筆したその時に記した私の言葉。

「この代筆を夕暮時の公園の街頭のすぐ側のベンチで記してゐます。語る彼の顔に、怒りと、悲しい表情をおぼえます。路上に湧く水（たとえそれが泥水でも）その、一滴、一滴のしづくの生きた声を聞きその願ひをこの社会に反映しなければとの願いで一杯です。」

彼はその頃朝三時に起きて毎日毎日高田馬場の手配師の所え職を求めて懸命に自分の力で生きようと必死の努力して居りました。私は彼の眞意な生きかたに、何か彼の力になればと思ひました。そして私は、彼の思ひを、生の声を、露宿に代筆致しました。彼の自分の心を裸で語った心境を露宿五号に記しました。あれから二年有半私も大病をわざらい入退院の生活で自分の事で一杯の生活現実でした。

突然、或る人から電話があり再会致しました。彼は長野県の或るダム工事の現場で働いてゐたそうですが、今回田中知事の脱

ダム宣言で工事も終り、環境整備の森林作業の仕事に従事するそうです。現在部下を持つ地位になつたそうです。二人で二年有半振りに会つた時、私は本当に、本当に良かつたと、良かつたと、心から思ひました。小さな雑誌露宿で心を通じ、御互に助け合うのも、厳しい社会の中で生きる一つの道だと深く思ひます。彼もわざわざ長野より探し求めて訪ねて来ました。御互に手を取り合つた時に私の胸にグッと熱い何物かがこみあげて来ました。これも小さな雑誌露宿のおかげと心から思ひます。

「ろじゅく」よ、有難う、有難う、と松本さんと共に心から声高らかに叫びたいと思ひます。

「忘れないで、君のあたたかい心を必要とする人がゐるのだから……と。」

11月15日 立冬を迎える初冬の寒風を窓に耳をしながら記す。

追記

二三日前、気温一七度の暖さでしたので都庁前の並木通りを過し、新宿公園に行きました。初冬の青空に並木の紅葉がクッキリと浮び調和した絵のようでした。そして初冬の風に吹かれ紅葉の葉が落ちて、まさに落葉の感を心に深めました。アパートで作ったユデタマゴ五十個を青いビニールシートの人々に配つて来ました。この小さな、小さな、白いタマゴが人々に喜びを與え、明日の生活に少しでも希望をと思ひました。

「やさしさが、息づくこの場所で、暗い長い土の中の時代があつた。いのちがけで芽生えた時もあつた。しかし草はそう云つた音を、ひとことも語らず、もつとも美しい今だけを見せてゐる」

今年も多難な厳しい年だと考えます。
皆様の御多幸をと想ひよせて 記す。

2003年 日本の都心、新宿区より
眞の民主主義の声を高らかに

田代 猛

過日、前新宿区長（小野田隆氏）が
五ヶ年有余にわたり十億八阡萬円の税
滞納で（内部告発）で辞職致しました。

区の最高責任者で自ら範を示すべきそ
の人人が五ヶ年有余に渡りの行為です。
一体区の税務課は何をしてゐたのでせ
うか。これが一中小企業者、一区民だ
つたらどうでせうか。三ヶ月で督促状、
そして差し押さえの現実です。余りに
も、余りにも、民主主義の原則（公平、
公正）をふみにじった官の行政です。
予算がない、予算がないの一点ばかりで
ズタズタに福祉予算は切り捨てられて
いることは、木つ端のケースワーカー
の頑なな言動にも伺われます。

東京弁護士会で二十八日、六時より
入場無料で霞が関の弁護士会館でシン
ボジュウム「みんなで考えよう！内部
告発保護法」が開かれました。呼びか
け人に名を連ねたのは、全国消費団体、
連絡会、原子力資料情報室、主婦連合
会、株主オンズマン等十二団体と、ジ
ャーナリスト島越俊太郎さん、篠害工
イズ訴訟原告の川田龍平さん、母親の
衆議院議員の川田悦子さん等々で内部
告発で問題が発覚した雪印や、東京電
力などの例に触れ「隠し通されている
不正がどれほどあるかを想像すると背
筋がゾッと寒くなります」と、保護制

度づくりの必要性を強調されました。

勿論、大企業を告発なされた人や、新
宿区役所区長を告発なされた人も、そ

の実体を生々しく語られました。その
後、いろいろ苦しみを受けられてゐ
られるそうです。

私も新宿区役所を内部告発なされた

人に質問致しました。

想ひおこすと、二、三年前迄は路上
生活者の人々に暖かいカップラーメ
ン、どんべえウドン等が與えられてゐ
ました。路上生活者の人々は特に寒い
季節は喜んで感謝して食べられてゐた
られた事を想ひおこします。それも予
算の切り捨てでなくなり固い非常用の
カンパンに変りました。老人の歯の弱
い人等は大変です。でも役所は與えて
ゐるのだから感謝せよとの言動です。

私の質問にその人は区長の滞納額の
一割で約千人強の人々に十年間一日も
休まず暖かいカップラーメン等が支給
されると話をされました。

これが行政の実体です、実体です。

旅

風太郎の詞

うた



墨田川

雨ふられ

皇居の芝布

とびおきる

寝な出て行け

冷い目

人世の旅、母の元を離て、
我が道を行く、山有谷有、
恋する者、愛する者、

寂な出て行け
冷い目

人は皆、旅人だ
人世の旅、母の元を離て、
我が道を行く、山有谷有、
恋する者、愛する者、

旅

（一月二九日、シンボジュウムの
帰りの日に思ひ記す）

連れを、つれて、

共に旅をする。

月島も
観光客に

追出され

俳句五首

はぐれ雲



はぐれ雲



きんもくせい 番り悲しい 撤去あと

コスモスの 優しさ強さ 身に沁みて

柿の実は 日比谷の夕日に よく似合う

ふるさとを 思い出させる 柿の色

台風一過 倒れた樹木に 赤んぼ

きんもくせい 番り悲しい 撤去あと

コスモスの 優しさ強さ 身に沁みて

柿の実は 日比谷の夕日に よく似合う

ふるさとを 思い出させる 柿の色

台風一過 倒れた樹木に 赤んぼ

戦後七十年、民主主義の原点に立ち
もどろう。：新宿区より遠き山村の

山々までに未来の日本の隅々までに。



悔香

悔
香
李
公
年
少
時
家
中
有
一
老
樹
其
根
枝
葉
皆
枯
盡
每
望
之
不
忍
去
因
名
之
曰
悔
香
及
長
大
學
文
書
詩
尤
好
偶
得
一
句
人
問
之
對
曰
此
树
生
于
我
家
时
予
年
尚
幼
不知
其
名
但
见
其
形
神
妙
绝
伦
予
每
闻
之
如
有
良
香
飘
来
予
不
忍
去
故
名
之
曰
悔
香

〈露宿大作也じア・・・・〉



〈破滅えむかつて・・・・・〉

95、9、26

秋戸 空



広大な〈人間種には表現できまい〉

大宇宙は

私（地球）をその広大さの内（なか）の
懐、深く抱きかかえて
くれているのを、感じた。
確かにそれが、視えた！

感じた！

しかし・・・

残念なのだけれども

私（地球）の地表に住む生物（人間種）は
それを謙虚に受けとめ

矮小化された〈支配権力〉・私の

ようともしない

軸をねじ曲げられてしまつたわたし（地球）

私の存在（あり）方をも

まったく無視されて
られてしまつた

私（地球）は、軸をねじ曲げ

されてしまつた

发展II（後退）というオロカナな
者どもに

私（地球）の存在（あり）方

中心のきしみ

中心の怒り
中心の哀しみ

私（地球）は・・・

血と苦汁と苦涙を

流しながら、自らの力で

回転（まわ）っている・今でも・・・

（自然を対象化するとは、すべての人たちのためには自然から攝取した物を人々の生活の中で役にたつ物を造り出す）

自然の対象化とは・・・

〈Karenay〉が

目標ではない!!

自然を対象化すると

云うよりも

めつた、やたらに乱開発!?
〈支配権力〉それに

連れ添う手下たち

このオロカナモノドモに

軸をねじ曲げられてしまつたわたし（地球）

オロカナモノどもは、その事を

見ようともしない

視せてしまつたら私の

自然の営みは存在（あつ）た・・・・?

（そして戦（いくさ）しか知らない
人間種のオロカナ者ども）

私（地球）を破壊しつづけている

（人間種）といふ

オロカナ者ども（支配権力）

追い求めるから・・・・・

（カレンシー＝通貨）

私（地球）は、常にそこのところを
疑視していかなければならない
のだけれども・・・

私（地球）は、再び矮小化された
自分を感じた！

中心の哀しみ
中心のきしみ

中心の怒り

いくつかの自然現象でケイ告しているのに・・・

それを・・・・・
中心の苦しみ（キム・ジハ）という

私（地球）が悶え苦しんでいるのが
見えないのか・?

私（地球）にあるという・・・

人間種が勝手気ままに造つた時間

と云う概念・・・

刻・分・時・日・月・年

それでも過ぎ去つていつた。

刻まれてゆく・・・・

自然の営みは存在（あつ）た・・・・?

（そして戦（いくさ）しか知らない
人間種のオロカナ者ども）

私（地球）を破壊しつづけている

（人間種）といふ

オロカナ者ども（支配権力）

追い求めるから・・・・・

この生命（精靈）も含めて掘り崩す人間種
貨幣＝〈karency〉

透明で顔のない存在
(ブレヒト詩行)

その遙それ以前・大宇宙は、
大きな爆発があり・その後
新しい生命として

私（地球）が生まれた

それを、なんと今にいたるまで地表に
うごめくオロカナ者（支配者）ども
〈karency〉が出来

私が出来

上がった頃から

私（地球）をそれ以来、破壊しつづけている！
し始めている！

真の私（地球）は、どこに行ってしまった

たのか？

私（地球）は、苦しいけどまだ

それほどの力（回転する）は残つ
ていて！

見せ続けている。テレヴィジョン現象・
刻々と暇なく見せ続けている。現象・
そこえプラネタリュウム

という現象

これが割り込んで来て・・・目的は

貨幣及び〈karency〉・・・

3

・・・ある殺戮の兵営

02. 4. 4

秋戸 空

小さな生き物とされた（植民地）の人々
その中でも今も生きている
極小の生き物たちの生命（いのち）
それを見守る自然ともいわれる精靈

・・・兵営とは幾つもの
アパートのよう
シキられた部屋が
充てがわれる
幾百万の、民、たち

オロカナ（権力者）ども、！
侵略戦争もその演出現象
・・・眞実を視せないよう、世界を！
テレヴィジョン、マスメディア現象
・・・見せつづける現象

視ようとしなければ想像力何も見えない・
〔ただ季節の消（なく）なつた現象を
様々な形像で現わしている。〕

この連中どもだけ・ども・
兵隊たちは自分の言葉を
発する事もできない
上部からの命令は
兵隊だから絶対なのだ！
となつてしまふ・？

それは、幾千万人殺戮しようと

上部からの命令だから・と・

この時利得をむさぼり喰らつて
得て いるのは

利得の上層部にいる連中

〈KARENcy〉通貨が

命令する・・・兵隊たちに

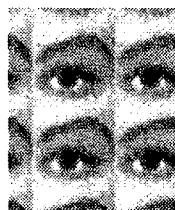
進め！・・・止まれ！・と

帝国主義の完璧 ??・・・さ？

石と銃

98、9、4

昼来 狂一



これに連するイスラエルの存在と行為
「世界」は、ナチ、ゲシュタポの時代に
戻つて来ている
六百万人のユダヤ人の生命（いのち）ヒ
トラーにささげて？！

いた時・・・

その時代その地パレスチナにおいてパレ
スチナ人を
パレスチナ人の住家を強奪していた
イスラエルになつて今度はパレスチナ人を
公然と（合法的）に殺戮している時代
ナチ、ゲシュタポ（シオニスト）

東ヨーロッパで貧困の代名詞であった

ユダヤ人
一方（富有者）の象徴的なヘブライ人
あらゆる思想の根拠地であるのに・・・
二極分化し人間を解放しない（富有
者）イスラエル
かつて南アのアパルトヘイトを支持
してみて武器を援助していた
イスラエル、ナチ、ゲシュタポ（シオニ
スト）ども

この民の抵抗に（化学兵器（ミサイル））
で叩き潰しても
その（神）はそうするように（命じ）
たのか・？

民衆は、民族ちがうけれど反目しあわな
いで
皆なで腕を組んでいこう！

（金）で自らの懐を膨らます・・・
エル

USAをヨーロッパ（EU）を
世界中のマスメディアも喧伝（けんで
ん）している・が
この大嘘付きどもも動けなくなるよう一
緒に
動けない輪の裡（うち）に閉じ込めよう
閉じ込められてきた民が起ち上がり
ヤツラの鎖をたち切ろうとした時に
ヤツラにせまつたら、ヤツラはビックリ
して
彼等をテロリストとよび（マスメディ
アも一緒だ！）
銃をメクラメッポウ撃ちだしたそして
ミサイルと云う兵器を・・・
彼等の押し込められていた難民キャンプに
撃ち込み数百人の人々が・・・
そしたらヤツラミサイル撃ち込む事は
（合法）だとよ・!!
市井でも数十人が生命（いのち）を潰さ
れた銃の乱射で
これも（合法）だとよ・!!

皆で取り囲んでこいつらを動けなくさせ
てやろう！
南アフリカのソウエトの蜂起もわすれ
るな！！

レスチナ

ミサイルも銃ももたずに抵抗する子供たち・・・

そこに銃を持ち乱射するイスラエルこれも「合法」だとよ・!!

巨大な欺瞞を動かしている

U.S.A

USAを築き上げるためにどれほどの先住民を虐殺してきたのか・・

それと連れ添うイスラエル

アベックと云われる（ご両人）

石で打ち壊すことはできない・が

民はくじけない・民は大きな輪になつてヤツらを取り囲める・圧制者ども・を！

あらゆる民族（軍事的抑圧）を受けている・・・

ささまざまな民族・・・さあ民族よ手をつなごう

（我々民衆はイガミ遭う事もないのだ）皆な一緒になつて・手をつないでいこ

う・よ

潰された人達がテロリストだと・・・

平気で嘘を付く（マスメディア）

資本主義の民主主義とは民衆の為の民主主義？ではない!!

資本という主人の云うことをよく聞く民の主義の事だ！！

世界案内 02.10.19

秋戸 空

ぼくらはこの世界に（なぐりつけらるる）感じがするこの連中に・・

（帝国主義者）ども

（白人、エセ白人）どもは

映像（映画）を写しそれは

欺瞞と嘘を持つている

民衆世界を蹂躪（網羅）しつくし

それは性と魂とを奪いつくす

そして人間の日常性も非日常性の世界も

総てを奪い去るのだつた

見るからに哀しみの（世界）を造り出すのが（帝國主義者）たちだ！！

映像は下層民をもごまかし（自分等）の内部に取り込んでしまもい・・・

（やさしい帝國主義者）を氣取つて第三世界にも君臨する

U.S.A. ニッポン（日本）ブリティッシュ・EUども

・・・世界をどう現わす？私の魂は、怒りと・憤りで一ぱい

金縛り

意情の夢
この迷路の光

走りたいのに
金縛りみたく

動けない

朝 左の肩が 固まつたまま 目が覚めた

耳鳴りの響く 放射冷却の朝

花 嘘かずに枯れる 花に惹かれる

咲き誇る花よりも 目立たず生きる 人に惹かれる

花 咲かずに枯れる

あの方所は
避けていたのに
あの時と
同じ曲が
流れてる

陽 気

あんたとは
馬が今わねえけど
今日は会う気がす

季節はずれの
陽気のせいかね

旅を続けよ
生前誓った
使命を果たせ

会うこともない
同志たち

旅を続けよ
生前誓った
使命を果たせ

晴れた日

不意の晴れた日

逢えないつらさを

あなたは知らない

全て無くしても
ほしいものがある

ことを

運命

人生と戦う
全ての者たち

勝つためには
受け入れて

楽しむしかない

五行詩

近松 雅之

無題

レイナ

02
8
25

このながの
揺れガチの心は
じぶんの脈さえわからぬ
雜音（むね）にうめられて
周囲（まわり）からの云々が染み透つてこない
人の心は都会の姿態（カタチ）
永遠に極限された局部の地図

砂の肌と湯気の目は
通りかかる手に気すかない
いきも届かない
人間はぐさるより、かわぐようになつた時代
にしてお
このうち
コンクリート化の混乱
人は人を感じるものではなく
人を見るものである混乱において
自分が混じり合わせられ
いつの間にか独り的でとまりなくなつた

性体液をためて
心を和らがせて
くさつていければ
ありがたい
それがいいの
だけれど
このうち
砂の肌と湯気の目は
通りかかる手に気すかない
いきも届かない
人間はぐさるより、かわぐようになつた時代
にしてお

意見広告

○ホームレス（経験者）の中から国会議員を誕生させ、日本を破滅から救おう !!

賛同者カンパ、金額自由

振込先

郵便振替口座 00160-6-190947 「ろじゅく編集室」

*「五渕提案に賛同」と記載の事

○新宿連絡会グループから、いわゆる「政治団体（正式な）」
を発足させて下さい。

○すべての宗教団体は税制上優遇されています。国家財政再建
とホームレス・失業者の救済のために国家への献金、寄付をお願いします。

五渕四郎 2003.1.1

不許複製

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第22号2003年1月1日発行(隔月刊)

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13 ろじゅく編集室

別れの

ブルース

港町

弓削鴻介

(二)

出船入船、港のかもめ、
オルゴールのメロディーが、
しばしの別れの、合図だぜ、
ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

中其の二

腕に錆の、レレレレ レレレ、
レレレレ レレレレ、マドロスの、
お国言葉は、レレレレ レレレ、
レレレ レレレレ、レレレレレ、
二度と逢えない、心と心、
レレレ レレレレレ、レレレレ。

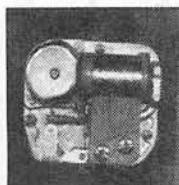
(一)
汽笛鳴らして、波止場をあとに、
オルゴールの、鐘の音が、
キンコンカーンと、鳴り渡る、
影が寄り添う夜更けの港町。

中
挿入歌其の一「別れのブルー
ス」オルゴールのメロディー
に載せて、呟く様に、ハミング
合唱。

(三)
小島通いの、連絡船の、
オルゴールの鐘の音が、
キンコンカーンと、囁いた、
恋のハーレルヤ、出船の港町。

中
挿入歌其の一「別れのブルー
ス」オルゴールのメロディー
に載せて、呟く様に、ハミング
合唱。

(一)
窓を開ければ、レレレレ レレレ、
レレレレ レレレレ、灯が見える、
夜風潮風、レレレレ レレレ、
レレレ レレレレ、レレレレ、
咽ぶ心よ、レレレレ、レレレ、
踊るブルースの切なさよ。



こがらし

子守唄



(二)

おいらが東京へ、旅立つ夜は、
涙で濡れてた、あの娘のこけし
あの娘は還つて来ないから、
こけしは独り、待ちわびる、
今夜は凍れて、冷たから、
あの娘も独りじや、さみしかろう。
ネンコロロ、ネンコロロ、
遠く聞える、笛の音。

中其の二

こがらしの、杜にチラチラ雪が舞う、
形見のこけしは、湯の町こけし、
あの娘は良く似た、可愛いこけし、
二度とは逢えない、悲しさを、
こけしに語る、子守唄、

(一)
別れが辛いと、泣き泣き言つた、
愛しいあの娘の、形見のこけし、
あの娘は病氣で、死んだけど、
こけしの胸に、生きている、
ネンコロロ、ネンコロロ、
あの娘が唄つた、子守唄、
ネンコロロ、ネンコロロ、
あの娘が唄つた、子守唄、
こがらし吹く夜は、うたうのさ。
こがらし吹く夜は、うたうのさ。

中
挿入歌其の一

こがらしの果てに聞える、海の音、
シユルリシユルシユル風が泣く。

入矢剛子

紅葉型文宣室被



かみ
ゆい
す



ミルクミル

歌集「結婚詐欺師」

PART 2

望月大成

大成

幼なくて負いし傷跡 君知らず
でんかん持ちは

鬼母のなす業

隠し事 また、一つ ばれにける

嘘とだましの

望月の家

すべて皆 邪教身延のだましの手

既成事実で 後の押しつけ

ガッカイ節

御本尊 邪宗亭主に触れさせじ

押入れ奥に 安置祀れば

女房

今さらに打つ手はあらず 腐れ縁

二児の子を持つ 母となりせば

ガッカイ節

ウルサイヨ ミンナ迷惑 止メテクレ

父サンノ歌

大成

親子にて通う心は何もなし

お飾り亭主

大成

子にも捨てられ

ガッカイ節

信心で眼を開けば盲なし

眞実を知るは

御仮の知恵

息子

見ゆるなり 邪教に狂う父君の

まことの姿

人の代作

我がものにして

鬼母清子

止めさせよ 千印なればすべて偽

免疫

免疫

免疫

女房

分りおり 根まわしすれど効あらず
手は貸すまじぞ 我非協力

お題目 唱えば心 日本晴れ

一家そろつて お手を合わせて

ガッカイ節

お題目 唱えば心 日本晴れ

一家そろつて お手を合わせて

ガッカイ節

一家そろつて お手を合わせて

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

ガッカイ節

旦那様 改宗なくて子作りは

断じてならず

子はドキチガイ

女房

ドキチガイ 正すすべなし 見込なし

改宗などて

さらゝになし

女房

報せあり 清子昇天 安らかに

類にほんのり

モナリザの笑み

大成

不吉なり 不幸のありし兆かな

最後の笑い

悪魔なるやも

息子

父サンハ邪教身延ノドキチガイ

正体バレテ

外モ歩ケズ

大成

その通り かくなる証拠 鏡見よ

お前は父の

コピーなりけり

息子

母サンノ大事ナ宝 御仏壇

父サン知ラヌ 押入レノ中

大成 息子

何たるぞ 一家のあるじ こけにして

我が家のが

御本尊とは

息子 女房

押入レノ御本尊様 守リ神

僕ノ病気モ

イツカ退散

大成

今ぞ知る やまし心の隠し事

亭主の名譽

二束三文

たくみ事 我関せずのよまい事

協力もせず

手助けもなし

大成

言葉なき操り人形 マイコンで

語るセリフは

鬼母の裏声

息子 女房

警告す ノート遊びは止めるべし

父は家出て

君捨てるべし

大成

ヒドイナリ 僕ノ大事ナマイホーム

父サン捨テテ

家ヲ出ルトハ

大成

ガッカイ節 こと大ボラの空手形

今さら遅し

マイホームなし

大成

ガッカイ節 並んだ花輪

生きてあらば花も開けり 実もなれり

わずか二十の

命なるとは

大成

義妹

日陰の身 死して花咲く大葬儀

並んだ花輪

十五本なる

大成

生きてあらば花も開けり 実もなれり

わずか二十の

命なるとは

大成

チビッ子の吾子はすく、 伸びざかり

身の丈六尺

棺桶の中

大姉貴

的信心が足りぬせいなり お膝元

義妹

骨上げでぜん息持ちは哀しかな

骨はボロ、

跡形もなし

女房

鬼母の知恵 すべて裏目の丸裸

親子三人

アパート暮し

本家

大ワルは婆あちゃんならず 土下座して

謝るべきは
亭主なりけり

ガツカイ節

何たるぞ 子達もと ガツカイ節

邪教身延で
お葬式とは

女房

だまされた妻にてあらば本家にて

西道見るは
至極当然

ガツカイ節

御仏は渡してならず 身延には
成仏あるは

大修寺のみ

女房

法輪寺 お役目終えて用なけば

吾子の行く先
大修寺なり

女房

覚悟せよ 吾子は死にたり 娘は離反

帰りし家は
針のむしろで

大成

針むしろ 今に始まることでなし

結婚詐欺師

汚名着たれば

富士を背にはるかに見ゆる大石寺
広宣流布で
世界制覇は

オウム

池田教 大風呂敷の空手形

千年経つて

何も変らず

義妹

おいっ子に線香一本 供えだし

許しあれだし
我是叔母なり

大修寺

邪教の徒 とつとと帰れ こゝなるは

日顯和尚

直々の寺

大成

大修寺 仏の道に外れたり

骨引揚げよ

吾子は因われ

女房

余計ごと こゝは山谷にあるまじぞ

騒ぎてあれば

我等迷惑

女房

吾子死して残るは娘 一人なり

嫁ぐ身なれば

亭主用なし

ガツカイ節

邪教には一人娘は渡さぬべし

結婚詐欺師

子まで食いもの

大成

だまされじ 嘘も方便 吾子のこと

お骨は実家

真言の寺

大成

だまされじ 嘘も方便 吾子の骨

ガツカイ墓地の

草に埋れて

サツ

御主人の帰る家なし いかゞせむ

富士吉田署に

保護さる、身は

女房

縁切れの身にてありせば聞わらず

本家一族

当りみたれば

女房

馬亭主 もとの古巣へ里帰り

山より他に

行くところなし

悪夢

酒を呑んで悪夢の世界 どうも毎日のように
呑む、やめなけではと思つて呑む
気がよわく、意志もよから、強くはりたくとも
性格、生まれつき、変えなけでは、
頑張れ 僕

102.10.20

脚が悪いから片足がまいんだ
だから苦いんだ。

巨大な力

何か目にみえたな、力が実存
するような気がする
それは魔神のような力
現在の僕もその力に足を引
かれてるような気がする
何者だろ 僕も自由にしてくれ
山脊の神様

よいお年を
さようなら

仲間たち。今年も。のこり一ヶ月で
すね。
今年わりストラが大かつたようだ
す。日本全国でも野宿者がおおいよ
うです。今国会でわ。らちもんだい。
そして二十代から四十五さいぐらい
の人じさつ、そして二十七日NH
Kの夜のニュースで大阪城公園で野
宿者をたいしょうにした。緊急一時
保護センターできてるらしい。それ
でもそこにはいらない人もいる。そ
こは。たたみ二じょうのへや。そこ
には十二月から三年までのじきしか
はいれない。

無

題

Kより

宿命

俺はハバカだ、だまされてる
だけの人生
ハムで働いても、女にだまされて
とふれてしまう、どうにか買つたり
てな。

ガニバツテ、ガニバツテ 100回
ハムの縛り返して言う
でもどうしようもな。

俺個人の孤特人生、
太郎の夢

運命

どうして、どうして 俺は不幸になら
ようし、なんどこそは 幸せになら
考へても、考へても 俺はハバカだ
ことしか考へされぬ。
毎日酒を呑んで 日暮すしかな
夢をおいかて、夢はほんの織る

太郎の夢



山谷の酒

雨にねれたるがじ 各む酒
寒い日のこと 5人くじ 寄せ合
の人、カサも買ってきて サン
テアゲル、とせん 1人がおこ
りたす、たせ カサも買ってきて
のだ、酒も買ってくれば はいの
わがじた、どうしても 雨にねれ
てがじ、各む酒の味が

02.11.24

このせ、俺が三人 1人は未来の夢の俺
1人は現実現在の俺 1人は過去的絶望の俺

しかし毎日のように過去の力が強いたが
過去の俺と出合ふ 翻んだくれて、一緒にたって
ハバカになつて

102.

ア 昨日に生きて
文化程度の低い沖縄県で産まれ
た、東京山谷でホームレスとして
路上で寝起きする現在 小遣いも
ともに、どこの社会のふも追出され
最後がもしやつては、山谷で
子供の時を思ひ出に生きてかかるも

貧乏神が見放された、ホームレス
どこのブルーテニスに寝よしか 来て
上野の仲間のところに行く
返事も聞くと、出て行けお前が
来る所ではな」と言う
上野公園で寝起きする、ホームレス
さむ、冬のことである





山谷の夜明け

タケちゃんは 1日中 道ばたで寝て
いる。夕方 近くになると 寝てる。
タケちゃん ケトバス 朝だか あさる
タケちゃんが へんな顔して起きる
おかしいなー

タケちゃんは 朝も 夕も タチモカ
うたう。で 頭は ふくって 寝てる

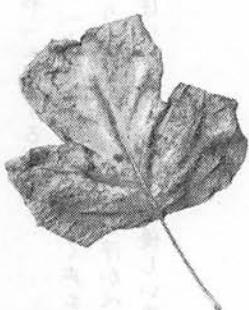
ちょっとまご神様

02.11.2

思ひ出す、誰でもこうと決めたい止まずに
やってしまう、酒呑みも同じ 365日 喫みはなし
酒だけの人生、他人が いいとも聞く耳も
ない、ケンカも そうである、おまわりが 来るまで
やつて、裏事だと 知つても やる人の
性格 なおせた、また 時だけ 過ぎて行く
死ぬまでなのか。



* 木の好きな色は、透明の色。



02.10.27

歌として一生が 終わるには 人生
明日はなく 今日の日の中に かくことなく
時だけが 流れていく、肉体は 一瞬のとき
俺のとも)裏面とヒー 呼吸の身
あわ、手 いき 沖縄島
太郎の墓に

太郎の墓に

始めての火を出し、自分の知らない新しい初めての場所で、初めての人々。
大きな火の前に、火が 燃えつく。どの誰も いかねえ かたより、
一緒に、白茶をかき、血をしみ、血をかまえて、磨く。危い地が
ある(いい)のか、いい(いい)のか。色々人が いて、1人1人を見つめ、3人、4人、
5人、6人を感じる。色々な色が集まる。火灭き出し。 川川幸三

境界線上にみる夢

(聞き書き) (上)

井上林太郎

と硬貨を数枚、ポケットに入れてやつたりする。
道ばたで、飲み屋で、「丸さん」「丸ちゃん」と、よく声をかけられる。そのたびに、はにかむようないつもの笑いを浮かべ、すこし口ごもつてから、やや子供っぽい、鼻にかかる優しい声で、言葉をかえす。

I

丸山（仮名）は四十代の後半。その年齢よりも十歳ちかく老けて見える。小柄な瘦身にシャツをはおり、裸足にサンダル履き――。

春から秋にかけて、それが、彼のいつものスタイルだった。

いかにも気のむくままにといった様子で、街の溜り場を歩き、顔見知りのそばへ寄つていっては声をかける。そのとき、彼はたいてい、はにかむように笑う。

浮浪者の街といわれる東京・山谷地区（台東区日本堤・清川の一带）。道ばたのあちこちで、円座に座りこみ、休日の時間をつぶす男たち。その輪のひとつに、丸山もいる。ときおり、輪のなかから笑い声があがる。しかし丸山の笑いは静かだ。どことなく照れくさそうに、皺のきざまれた顔を無邪気にくずす。

丸山は、一泊千円の宿を寝ぐらとしている。定職はなく、日払いの仕事すら探そうとしない。「むかしの舍弟」が事業で成功し、「いま、おれのスポンサーになっている」という。たまに会つては、いくばくかの金を渡されるらしい。しかし、その収入源もあまりあてにはならないようだ。それでも、ときおり缶コーヒーを何本か買ってきては山谷の男たちに配つたり、「ねえ、とつといてよ」

山谷の人間すべての、爪を、一本一本抜いてやりたくなるときがある。眼だつて、一つ一つえぐりとつてやりたい。どうせなにも見えちゃいない、なにも聞こえちゃいないんだから。だつたら眼だつて耳だつて潰しちまつたほうがいい。

だけど、そうはしないで、炊き出し（支援団体による食事の支援）を手伝つたり、山谷の人たちを助けるようなことをおれはしている。

キリストがね、こんなことを言つてゐるんだよ。他人を救なさい、そうすればあなたの罪も赦されるだろう、つて。

ほら、（路上に倒れている男を指して）血をながしてゐるでしょ。ありや喧嘩じゃない、酔つぱらつて転んだついでに擦りむいたんだろう。ドヤ（安宿）に自分の部屋があつても、酒を飲んじや道ばたでそのまま寝ちまう、そういうのが多いんだ。

おれもアオカソ（野宿）はずいぶんやつたけど、段ボールをかぶれば暖かいもんなんだ。冬でも、二重、三重にすればけつこう暖かい。でも、もしアオカソするんだつたら、木のしたとか屋根のしたとか、夜露のしのげるところでなきやだめだ。車だつて、三年もつ車が、野ざらしだと一年でだめになるつていうでしょ。

人間もいっしょだよ。

おれが山谷に来てまだ間もないころ、雨の強い日があつてね。商店街のアーケードから出てきた男が、そのまま傘もささずに、どしゃ降りのなかを歩いていった。すごい雨なのに、まるで晴れているかのように平然と歩いていくんだ。あれにはちょっとびっくりした。こんな人間がいるのか、つてね。もう魂がなくなってしまってるんだ。人間がこわれてしまってるんだ。そんなのが山谷にはごろごろいる。

II

(飲み屋で、隣席の男が丸山に時おり話しかける。不明瞭な発音で断片的に語られるその言葉は、つぶやきのようにも聞こえる)この人、なにを言つてゐるのか、あんたわかる? わからないですよ。だけど、おれにはわかるよ。最近会つた人たちのこと喋つてるんだ。

山谷の人間つてのはね、酒を飲んでも、自分の、ごく個人的なことしか話さない。独り言みたいにね。——それじゃあだめだ、まわりにわかるように話しなさい、つて言つてやつても、直りやしない。

きっと、カツちゃん(隣席の男の愛称)は、生まれるのが一万年ぐらい早すぎたんだ。なあ、カツちゃん、そだろ? 生まれるのが早すぎたもんだから、海の底から芽が伸びて、その途中、水のなかで花が咲いた。海のうえへ顔を出したときは、もう萎れちまつてゐる。もつと遅く生まれていれば、浅い海の底から芽が伸びて、海のうえで咲いたのに。普通の人たちのように、世間で花を咲かすことができたのに。ダーウィンの進化論から言うと、そうなるんだよ、カツちゃん。

カツちゃんはね、人間はすごく好いんだ。喧嘩だつてやれば強

いけど、山谷の連中も、飲み屋の女も、カツちゃんのこと馬鹿にしてた。それでも、カツちゃんは金が入ると、チップをばんばん渡しちゃう。おれたちにも土産なんかを買つてきてくれる。

カツちゃんみたいに馬鹿にされている人たちを飲み屋へ連れてきては、毎晩のようにおれは話を聞いてやつてる。ただ、それは疲れる。とくに最近は疲れがたまってきた。

III

二十代、三十代のころは、金はあつたが、頭がなかつた。百万もする背広着て、時計はローレックス、車はサンダーバード、フェラーリ。バイクだつて二台もつていた。夜は高級クラブにかよい、ひと晩で五十万つかつたこともある。

クラブに、気に入った女がいた。ヤクザの友達をつれてつたら、その日のうちに女を口説き落としちまつた。あとになつて、そいつ、言つたよ。「おまえ馬鹿だなー。あんな女、ひと晩でもう充分だ」つて

そういうつたやつらに金を貸し、踏み倒されたことも何度かあつた。いつのまにか行方をくらましちゃうんだ。事務所に電話しても、もうそいつはいないという。最初から返すつもりなんかなつかつたんだよ。連中は借りるときは決まつて言うのさ。「いついつまでに金が入る。たのも、貸してくれ。何日の何時までに必ず返すから」つてね。

やつらは女を口説くのもうまかつた。やりかたはだいたい決まつてゐる。クラブに行つた最初の日、店に入つて一時間もしないうちに、知り合いに電話をかけて寄こさせる。電話を受けたあと、

「急用ができた」って女に告げ、チップを二、三万おいて帰る。仕事をぱりぱりやつて金まわりがいいってことを印象づけとくだ。それから数日たつてから、また店へ行き、やさしい言葉を女人かけるのさ。

そんな連中とおれはつきあつてたし、おれだって同じようなものだつた。

そういうえば、若いころ、片目の潰れた犬を見つけ、仲間と手わけして手足をしばり、川に放りなげたこともあつたしな。

IV

山谷へ来たのは六、七年前か。

おれとおなじ沖縄出身で、南さんという人が山谷にいてね。おれに文学を教えてくれたのはその人だつた。ボードレールやランボー、それからライプセンなんかも読めつて勧められた。

南さんはおもしろい人だつたよ。金がないつて言うから、二人分のドヤ代をおれが払つて、その日、南さんも泊まれるようになつたことがあつた。公園で仲間たちと飲んでる南さんを、夕方呼びにいつたら、「おれはここで寝る」と言つた。「どうして?せつかく南さんの部屋も用意しといたのに」って言つても、「勘弁してくれ。おれは今日どうしても土のうえで寝たいんだ」とてきかない。

そのころ、山谷へ支援活動に来るきれいな女人がいた。南さんはよく、その人に話しかけていた。そばで聞いてたら、南さんは偉そうに、「おれは自然のままに生きるんだ」なんて言つてる。それでおれ、「酔っぱらつて好き勝手してるだけなのに、なにが自然だ」とつて言つてやつたの。そしたら南さん、「そんなこと言うなよ」とつて、困つたような顔してた。

隅田川で酒を飲み、酔っぱらうと、南さんはよく川に飛び込んで死んじやつた。冬だつた。水はつめたいさ。「一発だつた。
あの人は、自分のことを天才だつて言つてた。
だから、おれ、言つてやつたことがある。「昼間から焼酎ばかり飲んで、夜はドヤでころがつて、それでなんで天才なの?」って。そしたら、「おまえ、死ねるか?」って訊いてきた。「おれが死のうが死ぬまいが、大きなお世話だ」とて言つたら、南さんはこんな話をしたんだ。

山のうえに、仙人が暮らしていた。鬼が、仙人を喰いに、ふもとから登つてきた。喰い殺されそうになつた仙人は、鬼に言う。
——おまえ、死ねるか?

——死にたくない。

——おれは死ねる。死ねるやつが、いちばん強いんだ。

鬼は、そのまま山を降りていつた。

その話、だれが作つたんだつて訊いたら、「おれが作つた」とて南さんは言つてた。



山谷の天使

南さんは、飯場から帰つてくると稼ぎをみんなに配つちまうようなんだつた。はい千円、あなたにも千円つて、山谷の連中ひとりひとりに道ばたで手渡しちやう。そうやつて渡すために、仕事の帰り、わざわざ千円札にくずしてきただとおもう。そうして残つた金で酒を買い、やっぱりみんなで飲んじまう。

こころのきれいな人だつた。

いま、おれが図書館にかよつて勉強したりしてるのは、南さんの影響もあるのかも知れない。

V

若いころは女をよく好きになつた。好きな女ができると、ねむれない。しかたなく、夜、公園を歩いてると、胸が苦しくなつてくる。足はぐくぐくしてくる。心臓が飛びださんばかりに、どく、どく、と打つのを聞きながら、よく公園を歩いた。

おれがよく行く飲み屋では、中国人の女の子がたくさん働いてる。そのうちの一人に、図書館で借りた画集をもつていつて見せたことがある。ピカソとかシャガールの絵だつた。だけど、全然わからないと言つた。「子供が描いた絵みたい」つて。日本人だったら、わからないなりに、わかるうと努力するでしょ。なのに、中国人はそんなことしょともしない。そもそも感性がないんだとおもう。なにも感じられない、感じようとしない。だったら、眼も、耳も、口も、ぜんぶ切り落としちまつたほうがいいんだ。

その中国人の女の子が、山谷の焼き出しを見たいつて言うから、連れてつたこともある。その娘を見て、高杉さん（山谷の暴れん坊として知られる）が、「どつから連れてきた？」つて訊いてきた。「南千住のゴミ箱から拾つてきた」と答えた、さすがに高杉さん

んも笑つてた。その娘のいる飲み屋は、ほんとゴミ箱みたいなきかない店なんだよ。

彼女は、炊き出しに並んでいる男たちを見て、「こんなきたない人たち、みんな死んじやえばいいのに」つて言つた。中国人の娘つてのは、たとえ仏さまのようなきれいな顔をしてても、人間的な感情なんかまったくないんだ。金のことだけしか考えていない。

いや、本当だよ。

なぜかわかる？ 中国つてのはね、社会主義の国、唯物史観の国なんだ。唯物史観というのは、すべて物質主義、經濟主義の立場でものごとを見るということ。そんな国で生まれ育つた人間だから、日本に来て、飲み屋で働いても、客なんて全部いつしょに見えてるのさ。彼女たちが人を見る唯一の尺度は、その客が金を持つてているかどうかだけ。

だけどね、「みんな死んじやえばいいのに」つて言つた娘、そのあとといふことも言つた。おれにむかつてね、「あなただけ生きていればいい」つて。

その娘も、もう店を辞めてしまった。今どうしているのかは知らない。携帯の番号わたされたけど、連絡はしなかつた。その紙だつてもうどつかに行つちまつた。

そのあと、またべつの中国人の女の子がはいつてね。その娘は、飲み代をよく貸してくれる。ほかの者には貸さなくとも、おれにはツケにしてくれる。おれ、借りた金はからず返すしね。もつとも、今ではその娘にも会いたいとはおもわなくなつた。はんとうは顔も見たくないんだ。ただ、飲み代が安いから行くだけ。中國人なんて、しょせん物質主義者だから。

（つづく）

朝太郎の箱船

四

あすは晴れるの巻

鈴木克彦作
(山下金七)

一、どない船中殺してくれの章

悪事にかけちゃ朝太郎も及ばない 悪の権化の夕太郎サイバンを進めたがつじつまの合わぬ歴史に残る悪裁判ご無理ゴムッタイ 矛盾だらけの裁判で 一揆の善党悪党サバイたが多すぎる もうだめだ 裁ききれん バンザイだ 己の矛盾と不都合の統一性が夕太郎の脳ミソのハンイを飛び越えた 善人は重罪で悪人は無罪が建前であると特討受けた夕太郎 神聖でも善でも良くも正しくもないものを結果的には真正だ 善だ正しいのだと鵜呑みにして疑わず 行ったことが夕太郎らしからぬ愚行 しかも自分の汚ない存在すら全く理解できず 自分こそ善だ正だと信じる石頭を 痴狂人の敵だ罪を当えるのだと彈刻した ところが人は時に感じては 善人にも悪人にも早変り様変り このワタシ語り部や朝太郎までが その時々で善悪を人ごとのように逆に言つたり皮肉に言つたり 誰が決めたか善悪人や悪善人の解釈すらイイカゲン 大して意味もないことばを ガラにもなくまじめに考え

使うから難かしい
キのカンブも長いこと朝太郎に仕えてきながら バカのひとつ覚えのように痴狂人の擁護 優位のキ精神を貫こうと一步も引かぬその法律みたいなものは次なるもの
人身売買に人種差別 痴呆侮辱 教育ママが息子にハメさせながら勉強させる 児童天才教育させる者 ホームレスの小供を殺して内蔵取ったやつー重罪
痴力ン強力ン輪力ン歎力ン癪瘤は無罪 放免 預金のシスギ 善行しそぎ 働き過ぎ 強制善行 痴狂イジメ 児童虐待 ダッヂワイフを抱かせて見物した者は大罪
国境破り 国鉄・公番爆破 立ちマン 宅破り精神病院脱出 志願パン助には感謝状
誘拐殺人傷害 ハイジヤックは人により事件により重罪無罪 食い逃げ飲み逃げ ワイ裏 上官侮辱 裁判官警察官殺しは金一封
あとになつて痴呆強姦 輪姦強盗も罪に加えた バカバカしいこんな法律・不文律で裁判施行される訳はない 不思議な国のアリスが行った所にだつてこんなのはない
要は一揆首謀者の元官権を裁く訳だが

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

これまた当人の弁明も弁護人も出ず
の一方的裁判長の主観によるテキト
ウな判決ノミ
シヤバだつて悪人半分善人半分
だつて善人悪人半分半分 土台狂つ
てアベコベな人間虫の世の中 ウ象
ム象の裁判や行政
その婆婆世界が狂つてゐるからと
一度でひっくり返してみればもつと
アベコベになるからマカ不思議
あの世でもこの船でも一定不变な法
もある 矛盾のために裁けなくなつ
た事件は山積 上の者を下にして
下の者を上にして 虐げられた者を
優遇するのが骨子だが
上がらない者下がらない罪も出できて
裁判長 訳が分かつたら大変だとい
うことになる

聞いてる者や裁かれる石頭には一層訳
が分からぬ 夕太郎悪の秀才では
なくして 善行しか知らぬのが本当の姿
抑えていた愛の教祖の本心がチラリホ
ラ いよいよ本当の自分が顔を出し
始めだす

(我々は惡なる愛をもつて互に助け合
うことが大切 天地悠久の理りを実
践するナマケ心が大切 狂人は
正常人のため 惡人は善人のため
よく面倒をみて互に教化尊敬 人

「復讐は己の善の心にしなさい　暴徒に親を殺された官権の子を探がして　官権も暴徒も共にアクマより授かれた尊い命　役に立たない人なんてこの世にいないはず　相手を許すことがアクマの法」

「次には妙な原告が担ぎ込まれてくる　わたしは官権に自分の息子を殺されました　この世に官権がいる限り幸にはなれません　官権の廢止を――

ここで夕太郎　ふと元来の判断が外に出てしまう　つまりこちらが今まで気張ってきた夕太郎の限界臨界前ハラの方は朝飯前　内部崩壊が始まつたらしい

夕太郎　石頭夕チが氣の毒になつてきた　今までのようムゴイ判決下せぬままに

がアクマの奥儀は絶対非暴力　石頭が暴力を用いる前に痴狂人の争いも暴力)

先にある者は後からくる者を認めず　後からクル者は先にあつたものを破壊する

恨みを恨みで晴らし　痴狂人によくない者を切り捨てる　これは朝太郎の精神に反してはいまいか

「裁判長は先ほど——我々のことをお前らは始めから朝太郎船に乗れなかつた者だと決めつけたし、そう思う者も多い。我々も元の任務を中止させられだし、船の法には従つてきたつもりだが我々も朝太郎殿下に許可を受け船に乗つた者、それだけでなくとも我々は國の機関から使命を帯びてきただ官権である。

我々はマルキ牧場、発電所等に働く人々を監視する義務があり、司法官もいれば医者もボリスもいる。このようなシステムがなくして④解放部落は存在しなかつた。しかも裁判長より二年も前からマルキ部落に勤務して多くの人を知つてきている。

例えは今回のような大嵐、人々の気持が混乱し動揺動転している時にこそ、人命を守る法と秩序、倫理が必要だ。

我々は大混乱を制止しようと行動を起したのだ。極端な行動や感情を凶悪な暴力漢や異常に燃え上がる

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

人達を取りおさえるために立ち上がつたのだ
裁判長は我々を死刑だ死刑だと判決下したが死刑される方の身にもなつてみろ

一揆だ反乱だと決めつけておいでだが、我々にはその気はなく正し
い法の道を斯行した義勇軍である

もちろん(手)側にも我々の方にも証の分からぬ者はいるし互に目に余る者もあるが一方的な判断で朝太郎精神の歪曲で我々を罪人扱いするのは変である

居端に言うなら 弱い者虐げられた
者を救おう 力になろうとする朝
太郎精神に反する行為だと思う
わたし個人にとっても 朝太郎殿下
は尊敬に値する大人物である この
の者に反乱一揆を起す考えなど毛
頭ない」

ウムその通り語り部もそう思う 土台
神もアクマもこの世にはなく 痴狂
悪人も石頭もない いや善も悪も存
在しない

のになる(手)の中にも朝太郎を理解してない者も当然多いが、
朝太郎は言っている、神を求めすぎれば憂あり、アカマは人の上に神をつ

くらす
神の上にアタマをのせすと
狂人の作つた常識や一般性で世を治め
るのはいいが
これを守るのも狂人

船の中には変った者も多いが、この多くは生と死りてこそ妥当生ぼうじよへるといふのである。

かも極端者が極端な見方で裁判をすることに無理がある。当然首謀者側

から文句がでる。
「夕太郎このザマは何んだ
太郎精神とは思えない
これが朝 程度の差

こそあれ みな悪心も善心も持つ
て いる それを一方的に善だから
罪 惡だから無罪というのなら

善なる者をみな殺せばいい
我々だつて婆婆でもいろいろボラン

ティアをさせていただいた 食えない者に食を与える よりのない者に福止保正を手三

路上で寝ている者に正月は泊めてモチを食わせ 行き倒れの者には市

で埋葬できるよう計った
同じ町の者だもの
悪に歯向う善人にアクマの道を説き
善人も救おうというアクマの道も

が分かる

がそれができず逆に我々の愚かな
石頭を割り碎くというのならやれ
ばいい

放題イジメル悪党を制した我々を
殺せばいい」

曲学呵世の夕太郎 無我無中で五里
霧中 何が正しく何が狂つて いる

もうこんな船に生きたくないは
ない。正
てくれ

生活 ないことすら行えず希望のない船

息の根止めてくれ 僕はモトモト
死にたくて一揆軍に加わり戦つた
のだから

そうだみんな洪水で死んでしまつた親も小供も友達も生きて悪

人狂人の恥しめを受けるより殺してくれ

悪人は善人を殺すもの
だましだ
だからな

悪人よ さあ殺してくれ 夕太郎は
ニセ狂人 悪人の贋作だ 朝太郎
とは大違い

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

「我々は来るべきではなかつたのだ
自分ら被害者達がその復讐のため
我々を連れ出して こうやつて苦しめる
こんな輩の元に生きても仕方がない
彼らが恨みを忘れないのなあ さあ殺してくれ」

「夕太郎 億達だつて善人ばかりじゃない
暴力息子や氣の変な小供を抱え
アルツハイマーの親を持ちヒーヒーしながら勤めに行つてイ
ビラレで生きてきた」

「わしだつて周囲の人々と共に生きる

のに疑問を感じ カリマス宗教団

体に入つたり サラ金で追いまくられたり 犯罪やイタイタ病に苦

しむ者に味方をしたり

原水爆反対運動や 地震の被災者救

助活動に協力したり 難民の受け入れ活動までしたのだ みな自分

の意志と金とでだ 何んでも人や国にしてもらい 痴狂

ぶつて生きた者こそ逆差別 船の中でもノーノーとしてイバッテいたではないか」

石頭も愚狂連も今や一緒になつてさ

あ殺せ殺してくれの声は方々から起きり 合唱隊のコーラスのよう

首謀者達の抗議や主張に 人々ナビキ

イベンは 妖怪ポストに手紙を入れて ゲゲゲの鬼太郎にでも頼むことだ

始めた 船生活の苦しさに耐えたる人もまたあれど 石頭並べむ嵐の中の裁判後に―（注）と考えていた人

も多かつた 首謀者と共に戦つた二百人 それにモレタ後拾遺の人達もまた 今の規範や生活に満足していない いたライ

ビリも一揆も起こりはしない 船人二千五百総不満体 首謀者を取り巻く七・八百人の立合い人もまた 絶望的暗澹たる圧迫に耐えてたのだ 彼らを遠くからナガメテ寝そべつたり 暴力嵐の去つた平和をカミシメてる人や 花札をしたりして遊んでいる者もまた然り 女子小供老人部屋に生きてた人も もっとも アフガンの小供達とオンナジだ 理由のない恐怖にアヌも知れぬ死暗い船底にあえぐ人にとつて 安樂

死は希望の星 いつしか彼らもが 裁判長やそれを取り巻く中のゴリゴリ幹部に向つて殺してくれ 殺してくれと叫び出したのだ 石頭も愚狂連も今や一緒になつてさ

あ殺せ殺してくれの声は方々から起きり 合唱隊のコーラスのよう

海底から空しく死んだ無数の靈の殺してやる殺してやるの声よりも 大きく力強くタクサン響く 生きた者達の声々だ

そのパワー狂人達のイビリイビラレ 石頭本頑児派の騒ぎより 大きく船中みなぎる タ太郎ネもハもないほどに震え出す ④カンブ連でさえ制する力も压する 势もなく 恐怖妄者に変身する ああ またもや大混乱の再発か 諸人船にござりて叫びにけり しかも連合殺してくれ派は タ太郎ラの周りにツメ寄りカコンで殺してくれのシユレビコール またもや乱闘暴力か 人々愴然とナル いよいよアクマの無間地獄の釜のフタが開くのかーあわや 始まろうとしたその時に バカ声一セイしんばしを一 カン高い声がヒビキわたる 「ヤメレ！ ヤメルのだ 下らんマネ

一朝太郎だ 朝太郎 クソヒリ殿下だ

（注）は、引用、書き替えたもので、必
要があれば（著作権などの問題）、これを
正式に届ける用意があります。

もしかして、パート III

自立

只野醉払

A 交通費の請求も止めさせていただき、何とか自立を目指していました。

新宿福祉のケースワーカーから、ようやく、生活保護の辞退届の提出を許可していただき、11月から完全に、経済的自立を果すことができました。依存症の根元を断ち切ることができれば、アルコール依存症の回復も制覇をしたものです。

火曜日は区役所が19時まで利用できるので夜勤がなければ、16時に仕事を終えたあと、保険の加入と、国民年金の支払手続を取ることをしたいと考えています。

約2年半.....。

平成15年元旦
あけまして、おめでとうございます。

アルコール依存症のロダンです。南多摩地区、にしき町グルーピ

プです。

ロダンにとつて明日はない。いつでも、どこでも、今日一日な
のですが：。

今日は11月26日、火曜日、朝4時30分。

ロダンにとつて明日はない。いつでも、どこでも、今日一日な
のですが：。
きちゃんと仕事に行きます。家を8時10分ごろ出て、細工町、も
ちろん新宿区です。アパートから約3キロ強ありますが、昨日か
ら降り続いている雨が止んでいれば歩いて出勤するつもりです。
ロダンの歩くスピードはかなり速いので、35分もあれば職場に到
着します。

原稿締め切りは12月4日なので、なんとか出勤までにこれを書
き上げてしまおうと思いながらペンを走らせ始めました。

今、テレビを点けました。丁度天気予報をやつていて、今日は
8日ぶりに太陽が見られるそうです。現在の気温は9℃、日中は
16℃になるそうです。この調子だと歩いて行けそうです。
5月からフルタイムで働かせていただいている。7月からA

あれ!!うん!!眠っていたのか!!今、何時だ!!イケネエ!!

どうも眠つてしまつていたようだ。えーと、えーと。まずは弁
当を作ろう。冷蔵庫を開けーと。二度寝はいつまでも頭がすつき
りしないんだよなあ。昨日、赤札堂で買つて来た鮭とネギを一緒
にレンヂに入れて、3分位かなあ。よし、と。朝飯はコーヒーと
パンにしよう。カルビとネギもチンして弁当のおかずにしよう。
五目ごはんもチンしなきやあ。
何とか朝食を食べて、お弁当も作つたし、顔を洗つて、歯を磨
いて、身支度をしたら8時10分になつていた。
表に出ると、久し振りに太陽が出ていた。

8時45分、職場に到着。

9時から、ラジオ体操を日課としてやつてている。今日も欠かさ
ない。

帰りに大久保出張所に寄るから今日の夜勤は止めにした。昼過
ぎ会社に電話しておいた。

電話のあと12月分の家賃を振り込んだ。現金で振り込むと手数

料は650円だが銀行に入っている預金を振り込むと525円で済む。

16時に職場を出て、新宿区役所大久保出張所に着いたのが16時35分だった。

必要書類等に名前を書き込んで、過日、送付させていた生活保護受給証明書を一緒にして提出した。待つこと15分。国民健康保険証を手にすることができた。平成7年4月以来保険証を手にするのは7年ぶりだ。たぶん、今の健康状態なら必要はないかも知れない。しかし、今は、ひとつひとつ足元を固めていきたいと考えている。

昨日、約2年半のところでベンが止まってしまっている。その続きを書くことにしよう。

多くの方々に支えられていた2年半でした。

平成12年4月10日から新宿区役所の生活保護を受け始めました。アルコール依存症という病気のためです。生活費や治療費等は全てまかなっていただきました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。平成12年4月25日都立松沢病院に入院、お酒を飲まないで生きるためににはAAミーティングしかないと思い、とくに、南多摩地区、にしき町グループに、6月28日から通わさせていただき、11月22日には、メンバーに加えていただきました。ロダンは住所不定、無職のため、アパートを借りて住むことができないから、自省館（清瀬市竹丘）に移管が決った。3ヶ月の入院が結局4ヶ月半になりました。9月11日退院しました。自省館の生活はAAのなかで一体性の勉強の場と考えた方がいいようです。入院中AAミーティングに通い始めた事で、看護スタッフの方々との素晴らしい出合がありました。退館して、ロダンはFA宣言をし



て、これまでの担当さんから、唯一の女性スタッフに切り替えた。ロダンは男だから、やっぱり女性の方がいいんだよ。ネ、Yさん。

平成13年になるころ、とにもかくにも、生きる希望を持つことができたようです。

自省館を退館したのが平成13年6月8日、金曜日、ワンデーのメダルは八王子グループのカトリック八王子教会でいただきました。

そうそう、ロダンの名前は平成12年12月20日に仲間が名付けてくれたものです。このことが、仲間意識と、おまかせの部分（受け入れる）で、大きな力をいただいたことです。

仲間意識の点では、まず、もう誰れにも相手にされるはずはない、もう他人に信用されることはないと思っていたのに、仲間がロダンと名付けてくれたことは、飲まないで一緒に生きようとのメッセージだし、ロダンという名は、あまりにも高名な、彫刻家、代表作に考える人の作者、仲間が付けてくれたから名乗れる名前だし、同時に、あれつと首をかしげたくなる名前は仲間が付けたものなんだと思えるようになった。

南多摩地区では、病院、施設を出た日をワンドーと称していることから、自省館での生活中は、にしき町グループという母親の体内にいて、結果的には平成13年6月8日の退館日に誕生したことになるわけで、母体にいるなら、自分の名前は当然、親や、おじやおば等が名付けるのが当然だと考えることができた。急に「ロダン」と言われた時には正直いって、「他人の名前を勝手に決めるな!!」との思いが出たが、「ロダン」の名前を受け入れることができる、「おまかせ」の気持になれたのかなあ……。

平成13年3月20日、ある南多摩地区グループのオープニングスピーチ

カーズミーティングがあつて、会場に9時30分に着いた時、そのグroupeの仲間が、「ロダン、午後一番に伝統の朗読をして下さい。」と頼まれた。

昼夜の1時間、まる暗記するほど練習をしたのに、いざ壇上に立つて、大勢の仲間の前であがつてしまつた。その時、「よし、多くの仲間がびっくりするくらい上手に、あつといわせてやろう。」と思つていた。あがつた理由はこれだと気付いた。

退館した6月の17日に南多摩地区の「ステップの集い」の司会をさせていただいた時にはうまくやれなくたつて、失敗したつていい大勢の仲間がいてくれる。いつでも助けてくれるという思いに到つたからだろう。あがるということもなく、緊張することもなく、平静は気持で司会の一日を過ごすことができた。

その翌日の18日、中間施設MMへ面接へ行き、これはミーティングのなかで話したことだが、「いつから来ますか」の問い合わせに「18日はイヤです。19日から行きます」と答え、その中間施設に通わさせていただいた。退館して住んだ処が百人町、仙人になることを目指したわけではないのだが、利用する交通機関が都営大江戸線、東新宿駅を使うと、イヤが応でもコアリアン通りを通ることになる。食品の買物も職安通りの赤札堂、ドンキホーテ、韓国広場を利用することになる。とにかく、このあたりは「遊び」街です。遊ぶことよりミーティングに通い続けることができたことで、今があると思っている。第一のものは第一、まずは飲まない今日一日にすることだけを考えていた。

飲まないから、正気に向っている自身を見い出せることができた。飲まないから健康状態がそこぶるいい。労働意欲が出た。

MMの担当者が、7月の末ごろの面接で、「ロダン、ここをいつ出られてもいいですよ」といわれ、1ヶ月あとの8月末から、ロ

ダンの考えるAAプログラムにさせていただいた。

都立技術専門学校の受験失敗から囲碁の世界と考えたこともあつたが、10月の中ごろだつただろう。西武池袋線のひばりヶ丘駅にある碁会所「本因坊」で碁を打つていた時だつた。静かな碁会所にロダンの携帯の着信メロディーが流れた。思考が止まつて、電話に出ると新宿福祉のロダンの担当さんからで、「新宿区細工町で仕事をしてみないか」との話であつた。すぐに飛びついた。³⁵ 才位の時に数年間経験のある仕事だつた。仕事のなかで、一番やつていけるだらうと思える仕事だつた。

この時ほどハイヤーパワーを感じた事はなかつた。ロダンのための仕事が与えられたと思つた。平成13年3月末までの契約だつたが長期間労働していゝ不安は年が改まるころにはなくなつていたし、飲酒欲求も出なかつた。

そして、4月、多くの仲間と歩いた。徹底して歩いた。この一ヶ月多くの事を学んだ。

4月末にアクシデントがあつて、生活保護費の12万を紛失して、フルタイムの仕事をする強い気持を持つ事ができた。ケースワーカーの方がこの事を信じてくれた事がロダンの最大の贈り物だつた。信じられたことがステップ4を終つていたロダンにとつて、ステップ5への道へと進ませてくれた。5月2日、約6時間にわかつて、流れの水になることができた。

今現在、パート契約の職場が三ヶ所ある。といって、パートIIIにしたわけではないのですが……。

ひとつは、昨年依存症者として働かせていただいた新宿細工町の職場、これは平日、9時から16時までの勤務、10月1日から働かせていただいている。ひとつは、土日祝の勤務で土曜日は9時18時、日、祝は10時～18時、この仕事は体力はいらない。

あとひとつは、5月からフルタイムで働かせていただいている会社で、この不況のためか仕事量が少なくなつて、最大週2日の夜勤に切り替えたものだ。

第一木曜日は、松沢病院のメッセージ、第4金曜日は、桜ヶ丘記念病院のメッセージがあり、水曜日にしき町グループのミーティングがあるため、これらの日は夜勤はしない。会社に許可をいただいている。

多少、ミーティングの回数は少なくなつてきているが、AAミーティングにおまかせする気持に変りはない。お酒に対し無力ではあるが。

今、一番恐いのは……。一杯の酒、地震、火事、おやじ、そして、一に酒、二に酒、三、四がなくて、碁に酒。

平成14年6月16日の日曜日、南多摩地区のステップの集いで、ロダンはステップ12のスピーカーをさせていただいた。次のステップは、当然ステップ13ということになる。

国民健康保険と国民年金に加入させていただいた。そして、生命保険に入ろうと思って資料を請求した。資料を見ながら、保険金受取人の欄を見ながら……そして思った。入院保険金はロダン本人でいい。死亡保険は?????

そうだ、死亡保険受け取り人を決めなくちゃやあ……。

水道丁より

「ふう、新潟県新潟市。無む駄だな、やめました!」。T-1入出庫手帳。運送体制が悪。大変。一つと並んで多くの方々で、心配が広がる。」
（→）「じゃあは料金の仕方でいる新潟の問題でもあるんですよ」と通りかかる

問題でもあるんだよ……と聞かれて

毎年恒例となってきた私達「越冬」友の会

路上生活写真展——まへには

関係はござりません」と申立てた一、我曰

回目が先日終了。

展示したのは、「伊集家 木暮茂天さん

アリスの夢の世界へ

卷之五



ホーリーナード希望者が贈る
といふあ「活動資金(カニバ)
が集まると いふあ」と色んな

大抵は彼等の「アーヴィング」。

届けられた米、食材、衣類に世の中見てたもんじや

「なに」と田代がたずねた。「舞田の辻沿弭だかんの

演劇二段の「ホーリー」問題

報欄を見てしなど初めてお会いする様な方も

路上ふらり 東京 散歩

第22巻 最終回

「赤坂見附～四谷～新宿港町」

写真・岡田知子
文・笠井和明

新しい年を迎える。

巷では今年こそはと常套句が並び、何か自分が生れ変われるような錯覚が真冬の澄んだ空氣を彩る。

人とは間抜けなもので、新しいものがとくに好きなのである。そしてこの国は幸か不幸か、厳しい冬という季節に一年が終わり一年が始まるものだから、尚更新しさへの期待が、春を待つ心情とだぶり昂ぶつてしまふのである。

地球が太陽を一周しただけの事で新しい人生は始まらないとは思うものの、だらだら過ごすよりも区切りをつけた方が良い。区切りをつけるのならおもいっきり夢を見た方が良い。

去年の初夢などとうに忘れてしまったが、今年こそは夢をバクに食わねぬために、夢の逃げ足をせいぜい鍛える事にしよう。

今回のふらり散歩は、赤坂見附駅で降り、四谷から新宿駅東口へ。今年こそは結婚するぞと気合いの入った相方が遠方に嫁いでしまう



(予定の)ため、ふらり散歩も区切りをつけようと最終回。

見附から弁慶橋を渡る。冬の堀にはボートを漕ぐ人もおらず、

北国からやつて来た鴨が水草を懸命に啄ばむ。

大久保利通が暗殺された記念碑(?)がある清水谷公園に立ち寄る。かつての荒々しい雰囲気が、全面改修され都会風の小公園になってしまった。紀尾井坂周辺もさながら異国の景色のよう。王政復古とか云いながら、歐米の物まね近代化を推し進めた田舎侍が倒れた地に、まあ、ふさわしいのかも知れない。

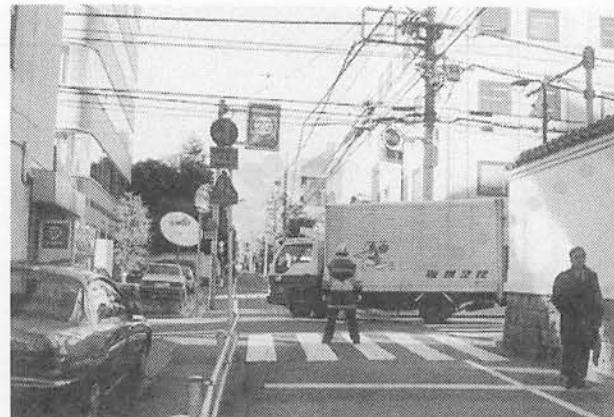
二番町あたりに来ると、ようやく夢物語から覚める。未開発の家並みは明治とまではいかないが、戦後の東京を少しは感じさせる。番町小学校からは子供達のはしゃぐ声が静かな街並みにゆつたりと響く。

外堀公園から四谷駅へ。

四谷と云えば、四谷怪談と迎賓館と鮫ヶ橋。何とも統一性もない渾沌たる事象を思い起こさせるのが、新宿区ならでは。高台と谷底がおりなす人の歴史がここでは見事に乱舞して来た。

潇洒な迎賓館のすぐ真下の谷底にあつた、かつての貧民窟四谷鮫ヶ橋(現・若葉町)は今や坂道以外の何の痕跡も残していない。周囲を歩くと、坂が多く、そして神社仏閣もやたらに多く、道が入り組んでいる。考えてみれば、お隣の信濃町近辺は創価学会関連施設の多く、四谷駅周辺にはキリスト関連施設も多い。渾沌とした地には救いが必要なのであろうか?そりや、お岩さんのような人や一生貧しき人は、死ななきや化けて出ることも出来ないが、生きていれば神や仏にすがる事が出来る。

ベルサイユ宮殿を模したと云う明治期の一級建築物、迎賓館があまり人気にならぬのも、かような人々の怨念が渦巻いている地に建ててしまつた事にも由来があるのだろうか。



坂道を昇り、降り、須賀神社で一服してから、四谷三丁目交差点を経、富久町に向う。バブル気の地上げ屋に虫食い状態にされてしまつたかの町も、今はようやく落ち着いた町になりつつある。新宿だからと云つて背伸びせず、誇りを持つて普通にやつていれば良いのである。下らん欲を出すから再開発などされてしまい、地域もろとも崩壊し去るのである。

西向天神で冬の鮮やかな落日を見る。銀杏の黄と西日が織りなす光の饗宴。どんな営みだろうが、こういう光景でいつの世も人は愈される。呑み、遊び、虚栄を張つたお上りさんが闊歩する歌舞伎町の裏手には尚更必要な空間である。

文化センター前を抜け、新宿三丁目から旭町（現・新宿四丁目）付近を散策する。旭町もかつての小さな貧民窟。今もドヤ街の痕跡を留め、ビジネス旅館がひしめく。火災に遭つて一時は再開発の危機に瀕したしょんべん横丁と云い、この四丁目と云い、戦後直後の雰囲気ならば、かの新宿駅周辺でもまだ残つている。勿論意図して残した訳ではないのだが、「あらゆる階級の人が交響」して形作られた新宿という街の歴史はそうやすやすと開発されないようである。

宿場町は、旅人が泊まる宿のみならず、旅の疲れを癒す享楽を提供するなど、一つの消費都市を作る。そこには様々な職業人や、金儲けを企む者から貧乏人まで生活という夢を見るため集まつてくる。内藤新宿も御多分に漏れずその歴史を歩み、宿場の廢止後も、人生の港町として名を残して来た。

その延長だと考えると、港町新宿に路上暮らしのおっちゃん等がやり直しの夢を抱えて集まつて来るのは、ごくごく自然な事である。問題なのは港の機能がバクにでも食われてしまつたか、働くなくなり、港町に彷徨う旅人を多く抱えてしまつた事である。ただ、それだけの事。

寄せ場たる都市はどこにでもある。

今度は日本全国でもふらりとするかな。



無事新宿港町から旅立てた、相方、岡田知子氏に感謝。

(完)

あかい花

はり師いが丸

晩秋のやわらかい日差しも、初冬の雨の冷たさも、うしろ姿を見られるのを避けて歩いていた去年の同じ季節を思い起こさせる。新しい年を祝う挨拶を交わす時節の到来が呪わしかった。今年の終りを、どんな表情で迎えるのか、想像することができなかった。希望がなかったのだ。

理由か事實を書き綴ってきた。露宿への寄稿だからしんきくさい路線になるのか、こうなるから露宿にしか書けないのか、さっぱりわからなくなってきたのだが、決して陽気とは言えない街道まっしぐらの編集長によると、いが丸の湿り気具合は比較的歓迎されたらしい。二月に一度、頁を埋める作業を続けることで、見えなかつた年の暮にも漸く辿りつくことができた。今年も貴重な紙面を割いてくださった露宿に、心から感謝します。

手におえない時間と空間の中に存在すること。生きるということは、ゼロから積み重ねていくものなのか。与えられた時間をゼロに向かって潰していくことなのか。

腕時計を捨てて久しい。刻まれる秒針に追い込まれることが厭わしかったのだ。時間というやつを表現するなら、砂時計のような方法がいいと思い込んでいた。時勢や都市に抗いたかったのだろう。やがて忙殺されることを切望する日が来ることなど考えたこともなかった若い頃のことだ。

理由を探すのは、心もとない時だ。道をつくるのは意志ではない。焦燥か、寂寞だ。茫漠とした時間の正体を、ふとした拍子に見てしまい、耐えきれなくなるのだ。一日一日を生き抜くので精一杯のはずだった途方もない歳月を、いつしか食い潰し始めるのは、砂の侵食に似ている。

もっとも、きっかけは淋しさでよいのだ。時にやさしく、時に残酷に、時間は空間を流れ続けるが、喜劇を悲劇にし、悲劇も喜劇にするのも、人の力なのだから。出逢うか否かの話。符合した瞬間に、道は一本につながる。捨てたはずの過去さえも飲みこんで。

「進化の途中みたいな花だよね。」白木蓮は、昔、女友達がけられると笑いとばした花である。今朝も、一本の白木蓮がそびえる家の前を通ると、大きな葉っぱがばらばらと落ちて地面を覆い尽くしていた。花も大ぶりだが、当たったら痛いんじゃないかと思うほど、その一葉もでかかった。その様に圧倒されて立ち尽くしていると、葉の落ちきった枝の先に宿っている、白くやわらかな蕾と目が合った。まさに冬へ向かう今、早春を彩る準備は既に始まっている。知らなかった樹や花のおもむきに気づく時、去年の今時分、何を見ていたのだろうと失笑するが、歳を重ねることができたことがうれしく思えるのも、そんな時である。

今度の春は、花をめでることができるといい。しがらんだ人たちとともに。

おきなわ旅日記

～与那国を去る～ 恵田美代子



朝、与那国島ですっかりお世話になったイクコさんとその子どもルイちゃんに送られ港へ。なんだか、この島を去る実感が湧かず、またすぐ戻るような気持ちになる。イクコさんは最後まで気を使い、飲み物やお菓子、塩辛はては船酔い止めの薬まで持たせてくれる。

出航。炎す搖れる与那国→石垣航路、船酔い防止作戦にと早速狭い船内に寝床を確保してから、再び甲板に出るとモウレツな風がびゅーびゅー、耳がおかしくなってくる。与那国から離れるにつれ、切り立つ岩肌、緑が強調され孤島の趣。この勇ましい島の中に、たくさんの情けがあったんだ。ずっと1羽の鳥が船を先導するかのように飛んでいる。そろそろ酔いそうなので寝床へ行き、備え付けの毛布にくるまる。熟睡し4時間後石垣島到着。藍色の海からエメラルドグリーンの海に変わっている。与那国へ発つ前に利用した港近くの民宿で荷をほどき、石垣唯一の銭湯の“池”（浴槽）につかる。うわーん、やっぱりホッとする。そういうばと那国に滞在していた約2週間池につかっていなかった。

民宿で知りあった、石垣で水産学校の先生になる女性と、島内ぶらぶら散歩。魚好きの彼女、魚屋の前でぴたり足を止め石垣で捕れる魚の名前を教えてくれる。店の横には売り物にならない魚がゴミとして捨てられているのだが、その豪華なことといったら。二人、民宿近くの居酒屋で土地の魚グルクンを食べながら大いに盛り上がり、ほろ酔い加減で宿に戻り就寝。しかし、港周辺のあまりの静けさに寝つけなくなる。

石垣には、数人のホームレスが居るという。夕方集まるという場所に行くが、会えずじまい。東京よりこっちの方があつたかい分、楽じゃないのかな？ そんな話を聞きたかったのだが、残念。

次号23号は3月1日発行予定です。

原稿締めきりは2月4日必着にて

お願いします。

編集後記

新年さわやかにおめでとうございます。

「春追って 街を彷徨い 幾年か

果てなく続く わたしのふらり」

繰り返す季節を歩き続けた何年かでした。最終回を迎える、感慨ひとしお…がしかし、まだまだ行くのです。ふーらりふらり、春の先には春がある。眠れぬ夜に羊數えず露宿読み～。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

(お)

露宿ベン俱乐部短信

新年明けましておめでとうござります。投稿者の皆様、そして読者の皆様、今年も一生懸命働き、生き、そして書き、路上文化創出のために一肌脱ぎましょう。

今号から東京駅銀座駅周辺の仲間も投稿して来てくれています。根なし草さん、京都人さん、旅一人さん、どうもありがとうございます。これからも書き手の輪をどんどん広げましょう。

本格的な冬はこれからです。まずは体調を崩さないよう。そして防寒対策もしっかりやって春を迎えましょう。

今年が幸多き年になるように！

Rojuku

定期購読大募集

購読費・スポンサー費
送り先
郵便振替口座
00160-6-190947
「ろじゅく編集室」

露宿バックナンバー 有ります。

露宿バックナンバーは創刊号から（2号、4号、18号は売切です）在庫があります。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

「ろじゅく」

[露宿定期購読の御案内]

毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。

一冊は送料込みで660円となります。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

露宿 ROJUKUはココで買えます。

◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野プロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ポケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL 090-3818-3450 ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・ぴいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿（ROJUKU）」第22号 2003年1月1日発行（隔月刊）

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450（笠井）

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー